

富山大学医学部教授会要望書

本学では、次期学長候補者について、教職員有権者による意向調査が二回にわたり実施されました。本年12月4日開催の富山大学学長選考会議は、意向調査では二回とも最下位であった西頭現学長を次期学長として選出しました。富山大学医学部教授会は、本学の発展と健全な大学運営を望むものであり、今回の学長選考会議の選考結果に対し遺憾の意を表明します。

富山大学医学部教授会は、選考会議の選考結果に関して、12月24日に開催された教授会の議を経て、以下の問題点を踏まえ、要望します。

学長選考結果の問題点

学長選考会議規則によれば、意向調査の結果はあくまで選考の『参考』とあります。しかしながら、今回一位、二位ではなく、第一次、第二次ともに二割の支持しか得られず、これほど大きな得票差があった第三位候補を学長に選出した事例は、全国の国立大学法人学長選考史上、例がなく異常な事態であります。選考会議は、特に学外の選考委員は、意向調査の結果を「参考」とするのではなく、「無視」したと言わざるを得ず、本学構成員の意向が反映されない選考方法に問題があります。今回の結果は、大学の自治を著しく侵害するものです。

また、今回の選考結果は、学長選考において教職員による意向調査が、しかも二回にわたって行うことが無意味であることを示し、教育、研究、あるいは多忙な臨床業務に従事しながら大学の将来を考え、投票した有権者の気持ちを踏みにじるものであり、今後、教職員のやる気を落とすとともに、社会的にも本学の信用に疑念を投げかけるものであります。

もし今回の学長選考方法がそのまま踏襲されるならば、次回以降の学長選考においても再度問題となる可能性があり、今後の国立大学法人のあり方に甚大な悪影響を与えるものであり、とても容認できるものではありません。

医学部教授会は以下を要望いたします。

1) 選考会議結果について、これを受けた学長には全教職員に対して早期に十分な説明をすること。

2) 一次、二次の意向調査の結果は、本学教職員の約八割が執行部のこれまで三年間の大学運営に不信任を示したものです。このような状況に至った点を真摯に受けとめ、速やかな執行部の刷新と目に見える形の全学協力体制の構築を行うこと。

3) 学長選考委員の選出法や定数のあり方、意向調査結果の取扱い方等、学内構成員の意志が尊重される形への学長選考方法の見直しを行うこと。

西頭学長には、本学の危機的事態を解決するために、上記の項目に関して真摯に対応いただくよう、切に要望します。

2008年12月26日

富山大学医学部教授会